

春先の受注減に耐え巻き返しへ

サイトウ建築事務所は、新築を年に1、2棟、そのほかはリフォームを中心を受注する家族経営の工務店だ。しかし、震災を機にぱたりと受注が止まってしまった。リフォームの相談に乗っていた顧客は「地震が落ち着くまでちょっと様子をみたい」と言い出し、新築の話が契約寸前までいっていた見込み客からも「なかったことに」という連絡がきてしまった。

「新築の見込み客は勤務先が建

材メーカーで、東北地方の工場が被災して経済的に打撃を受けたらしい。収入が下がることがわかって、住宅の新築を断念せざるを得なくなったようだ。正直、痛手だ」。社長の齊藤和生さんはこう言っている。

本来なら受注が増える春先に急に手が空いてしまった齊藤さんは、被害の大きさを伝えるニュースに接して、すっかり無力感にとらわれてしまった。「電話があると顧

客からの住宅被害の知らせではないかとびくびくしていた」。不安で眠れない夜もあったという。

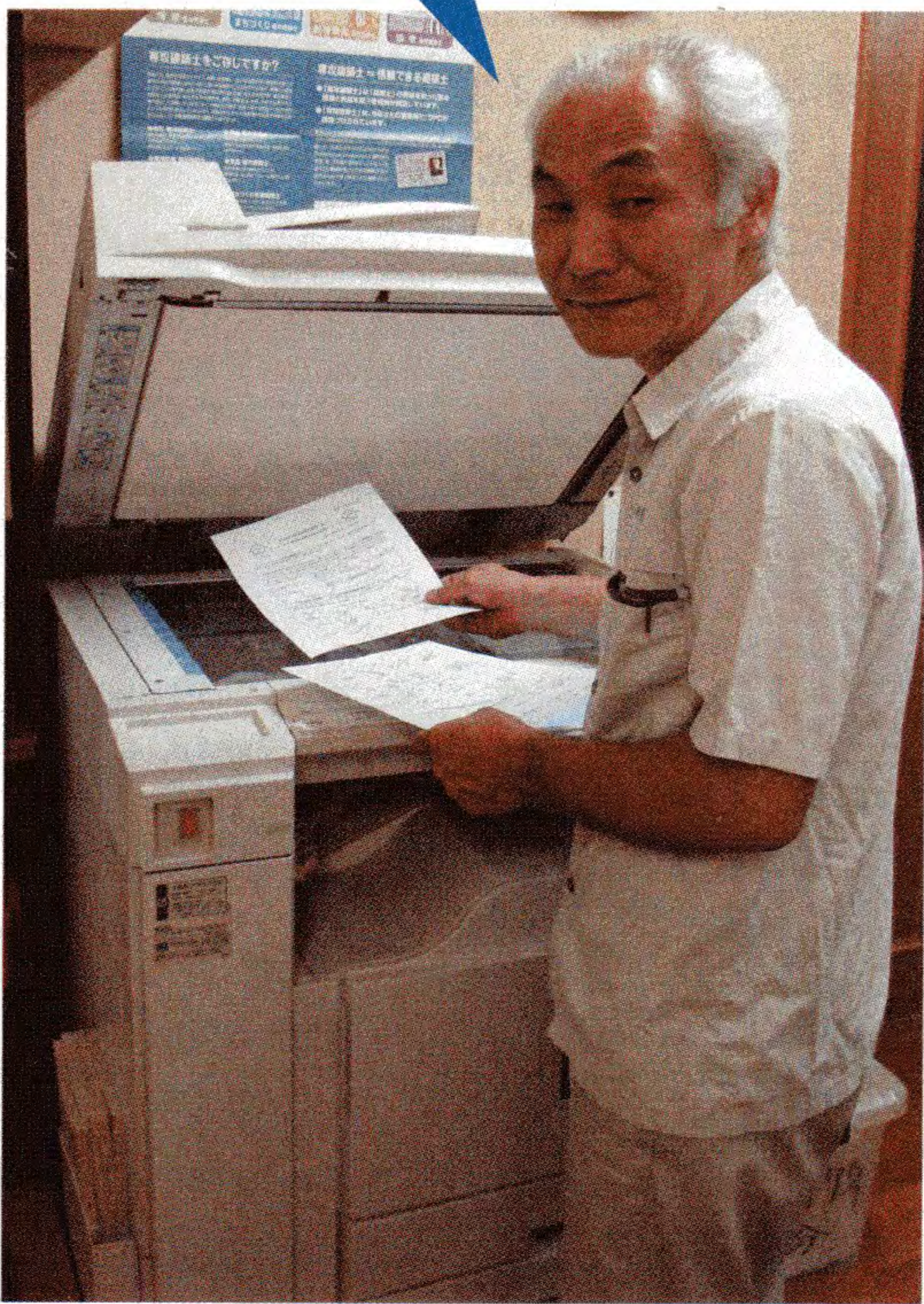
しかし、4月中旬には建材や設備機器の物流にめどがたつたこともあり、再び動き出すことに。様子見を決め込んでいたリフォームの顧客に「生活はこれからも続くのだから、時機を逸しないようにしましょう」と呼びかけ、キッチンに入れ替え工事の契約をまとめることができた。「顧客の側でもきつかけを待っていたのかもしれない」と齊藤さん。

7月には夏の節電対策についての情報をまとめ、150世帯のOB客

に郵送。メンテナンスについてのチェックシートなども同封し、リフォーム受注の促進を狙っている。「OB客とはこのところ接点が減少気味だったので、よい機会だと思った。当社の存在感を少しでも意識してもらえたら」と考えている。

ただ、昨年のいまごろと比べると小口の修繕仕事なども減っていて、気掛かりだという。「そのうち顧客のマインドも震災前の状態に戻るはず。それまで焦らず、自分のスタンスを見失わないように気をつけたい」。齊藤さんは自分に言い聞かせるように話す。

そのうち顧客のマインドも震災前の状態に戻るはずだ



お客様各位
節電・我が家の点検についてのお知らせ
平成 23年 6月 吉日

この度の東日本大震災で被害を受けられた関係の皆様によりお見舞いを申し上げます。

大震災以降、被災地以外の地域でも様々な予想される中、私達個人の生活形態に対しては、様々な影響がもたらされています。皆様方に於かれましては既に実施されたいくつかの節電対策、当社でもまとまっております。住まいの維持管理・チェックポイント、住まいの点検、住まいの点検も重要な取り組みの一つです。住まいの点検は住まいの健康な状態を維持し、住まいの安全を確保するために大切な取り組みです。住まいの点検は、住まいの健康な状態を維持し、住まいの安全を確保するために大切な取り組みです。

我が家の節電ポイント!
7~9月(夏)はエアコン(冷房)による電力消費が増加し、特に午後2時(14時)頃が最も多くなり、過去のデータによると夏の電力需要のピーク時間帯「午前9時から午後8時」が節電対策には重要となります。在宅世帯では午後2時頃の平均消費電力は1,200W、特にエアコンの消費電力が全体の約半分を占めています。

日中不在の世帯でもテレビ、冷蔵庫、等の待機電力で平均約340Wを消費しています。

待機電力	割合
エアコン	55%
冷蔵庫	23%
照明	9%
その他	10%
パソコン	0.3%
温水洗浄便座	0.8%

一般家庭で15%の電力削減が可能かどうかモデルケースで確認してみよう。
前提条件 2階建て住宅・3LDK 約100㎡前後・3人家族(両親、幼児)
夏季消費電力 700KW/月 (平均データ)

削減項目	削減率	削減電力(W)	削減電力(kWh)	削減率
エアコン	15%	150	4.5	15%
冷蔵庫	10%	100	3.0	10%
照明	5%	50	1.5	5%
その他	5%	50	1.5	5%
合計	35%	350	10.5	35%

削減電力(1日あたり) 合計 3,419W(3,419W)
想定の上は削減可能となりましたが、どうですか? 努力をしましょう!

現場仕事が減った分、プレゼン資料や見積りの作成に力を入れている齊藤さん(上の写真)。7月初旬にはOB客向けに節電対策についての資料を作成、郵送して自社の存在をアピール